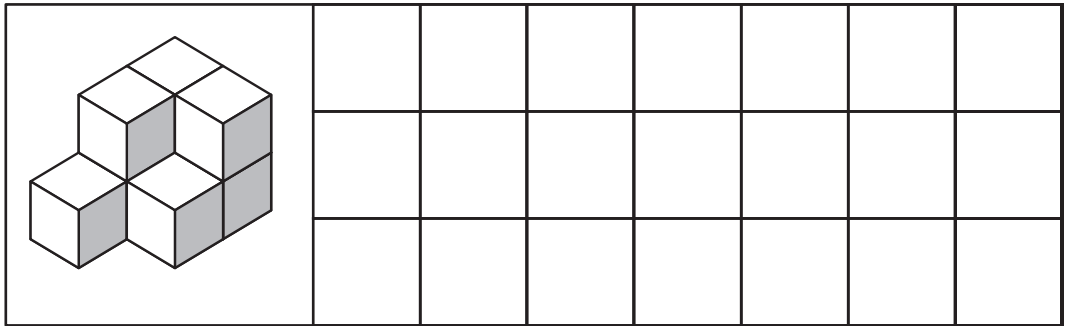


<指導上のポイント>

この「積み木の問題」は、全国の有名小学校の入試問題の中から、「積み木の問題」に関するものを選び出し、8種類に分類してあります。この問題は単に小学校入試でよく用いられるだけでなく、数能力全般の能力育成に効果的で、特に事象の抽象化・概念化の能力育成には効果を発揮します。

<例題1> 積み木の数だけ、○をかきなさい。



この「積み木の問題」は上記の<例題1>の問題がすべての基礎です。小学校入試でも、この出題形式が積み木に関する問題の70~80%を占めると思われます。まずは数をまとまりとして捕らえる練習をさせてください。決して、 $1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot \dots$ などと数えさせず、一瞬にして個数が言えるようになるまでやりましょう。

<例題2>、<例題3>、<例題4>も、<例題1>ができればわけなくできるようになるでしょう。

<例題5>は、左の積み木の個数の数と、右の積み木の個数を続けて書けば結果的に足した答えが出てくるのですが、<例題1>をたくさんこなせば、瞬時に足し算の答えもわかるようになるので、それまで待つようにしてください。

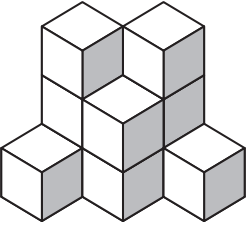
<例題6>は、全部の個数と見えている個数の差を考えるのですが、これもまた<例題1>ができるようになれば自然に答えが出るようになるでしょう。

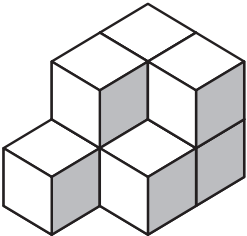
<例題7>は構成把握・空間把握といった能力をチェックするための問題ですが、<例題1>ができれば、より間違いが少なくなるでしょう。

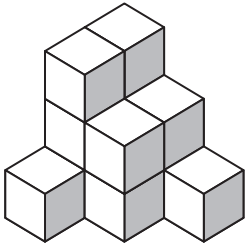
「積み木の問題」ができるようになれば、本当の意味での数の合成・分解が理解できるようになります。それが算数の基礎を養成することに繋がりますので、がんばってトレーニングしてください。

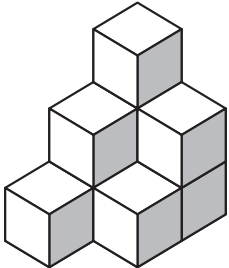
例題 1

積み木の数だけ、○をかきなさい。

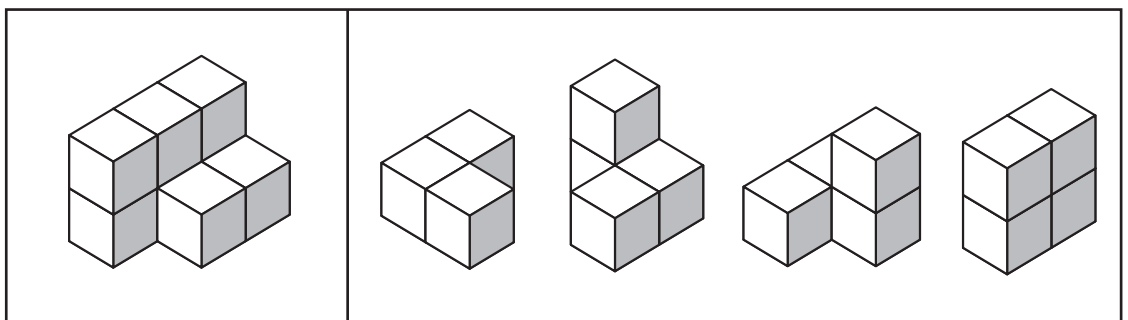
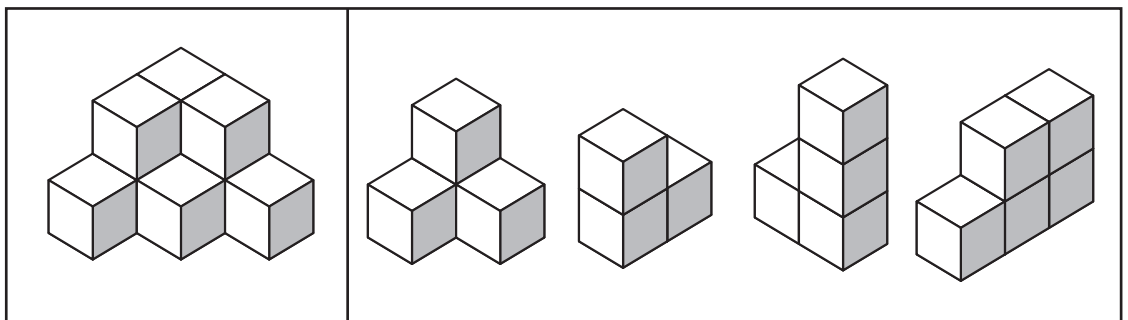
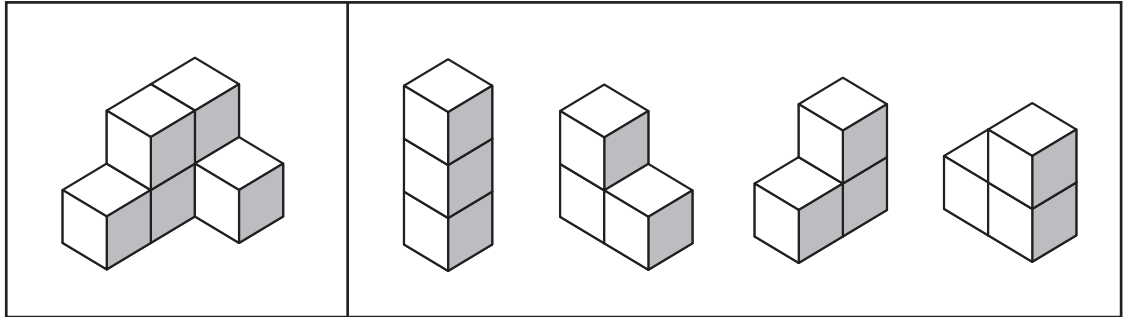
							

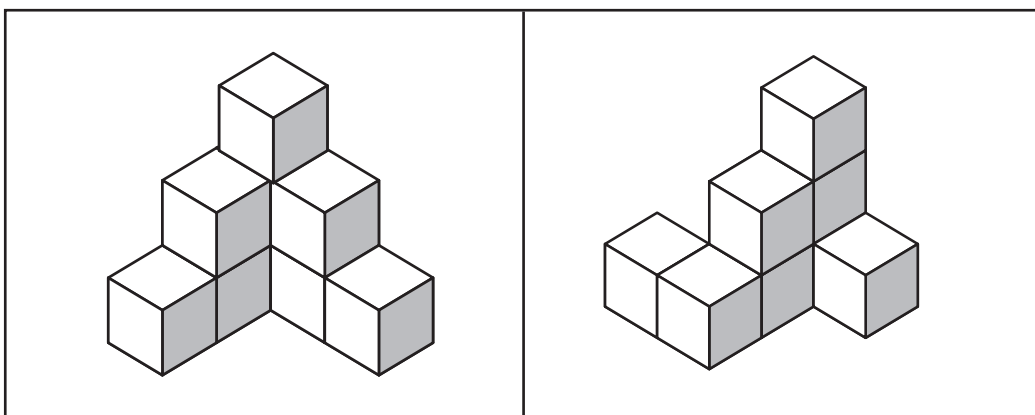
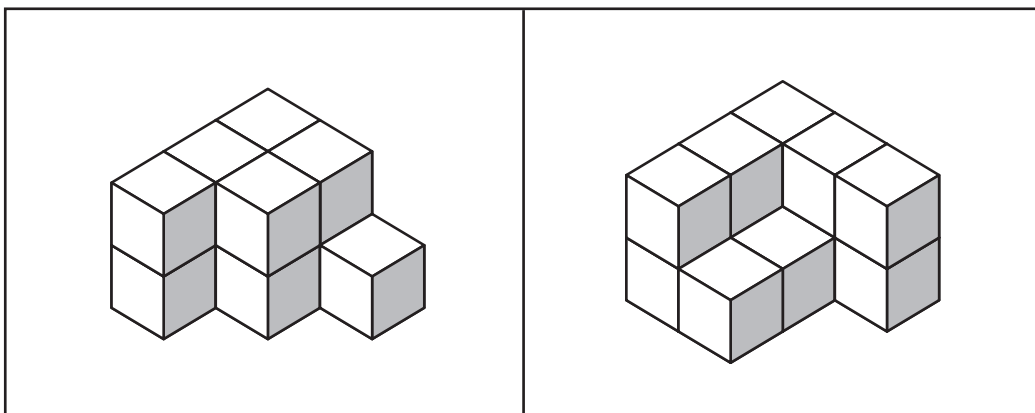
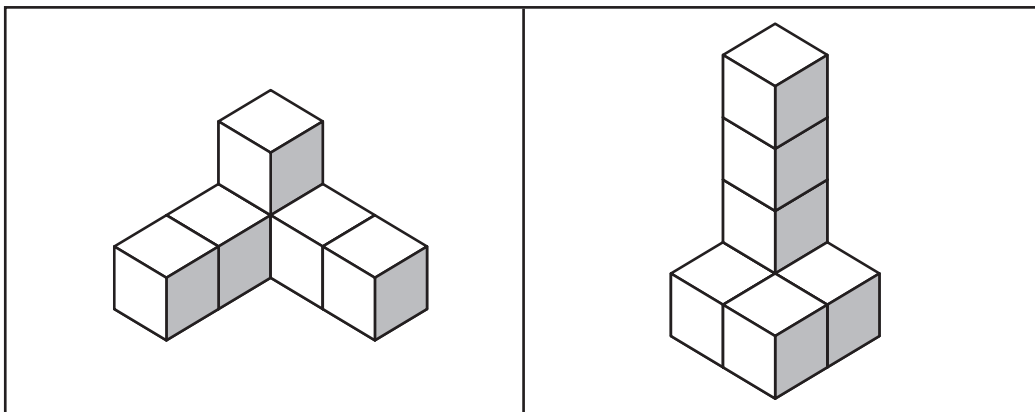
							

例題 7

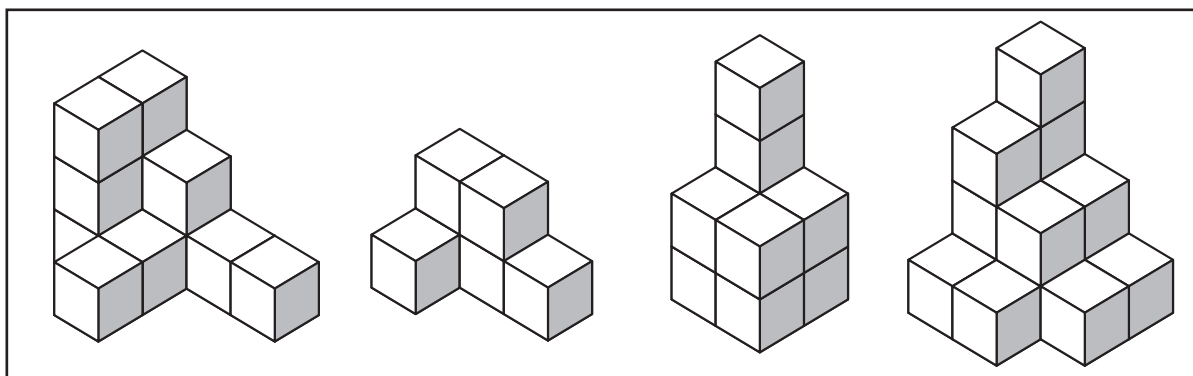
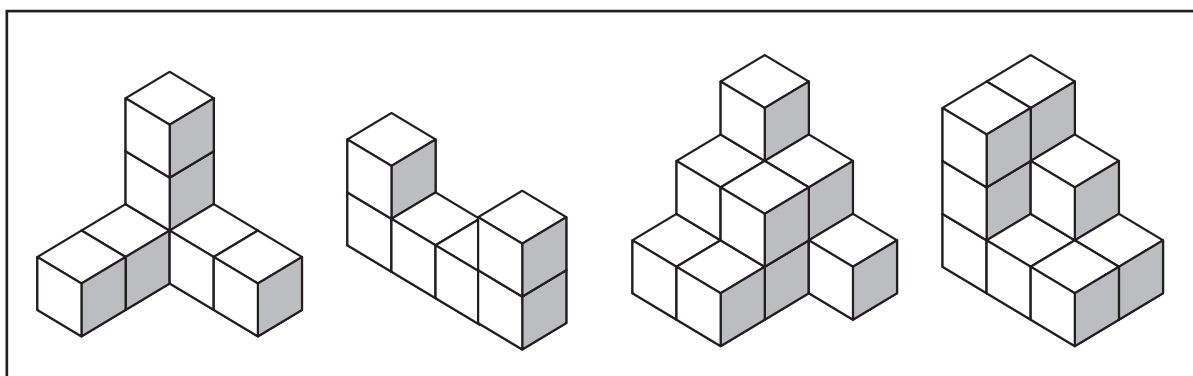
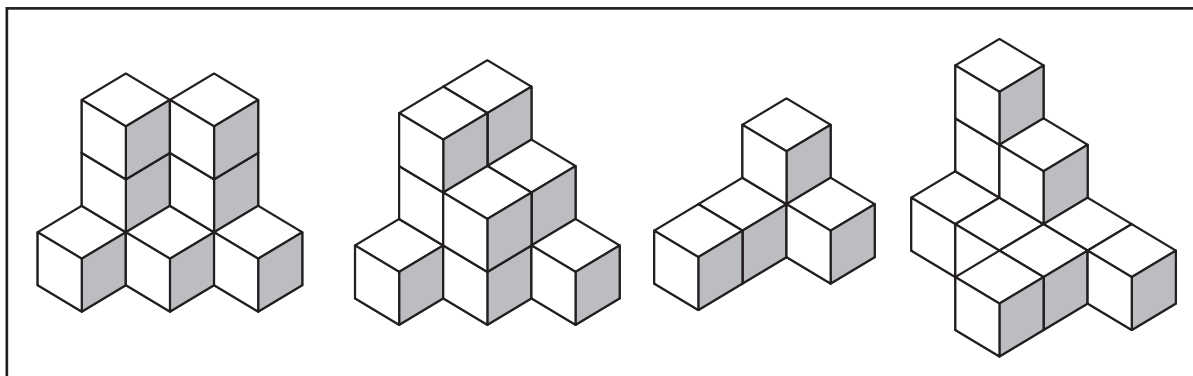
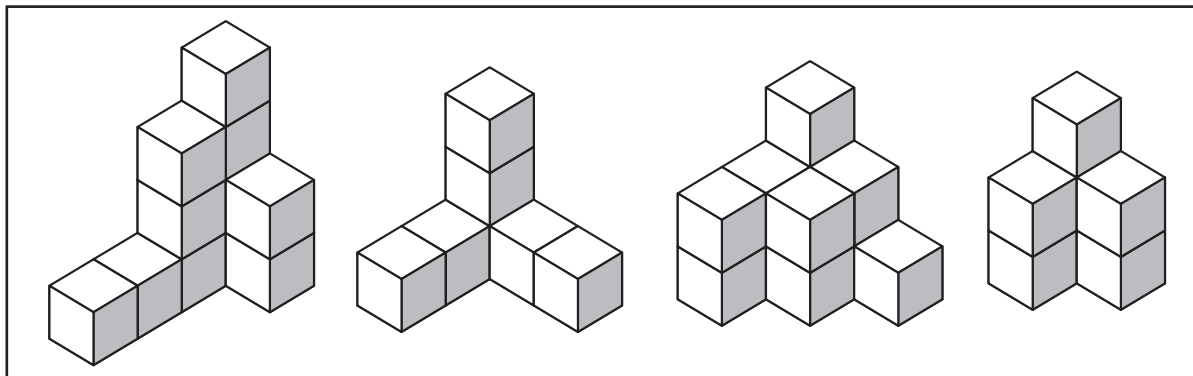
左端の形の積み木は、右の二つの積み木を合わせるとできます。
 どの積み木とどの積み木でしょうか？見つけて○をつけましょう。



(例題2)の類題 1
 左と右の積み木をくらべて、多いほうに○をかきなさい。

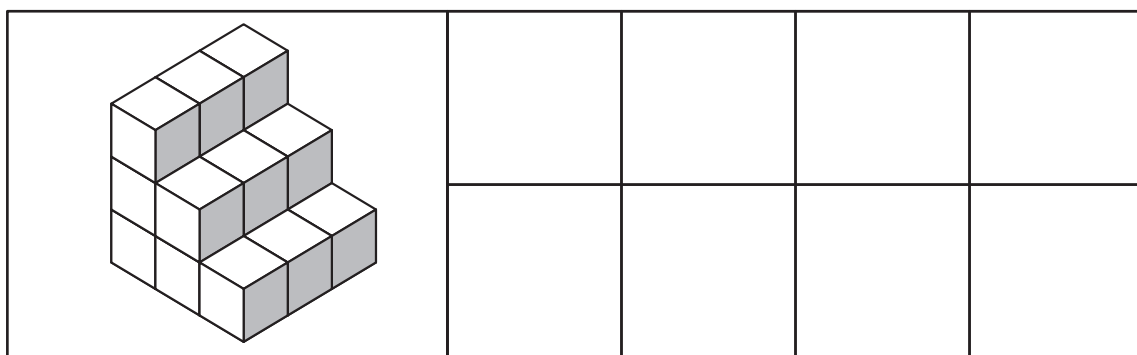
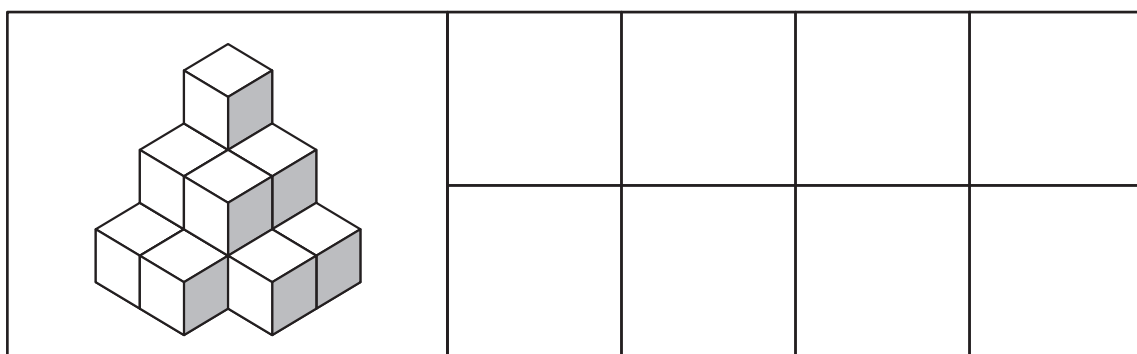
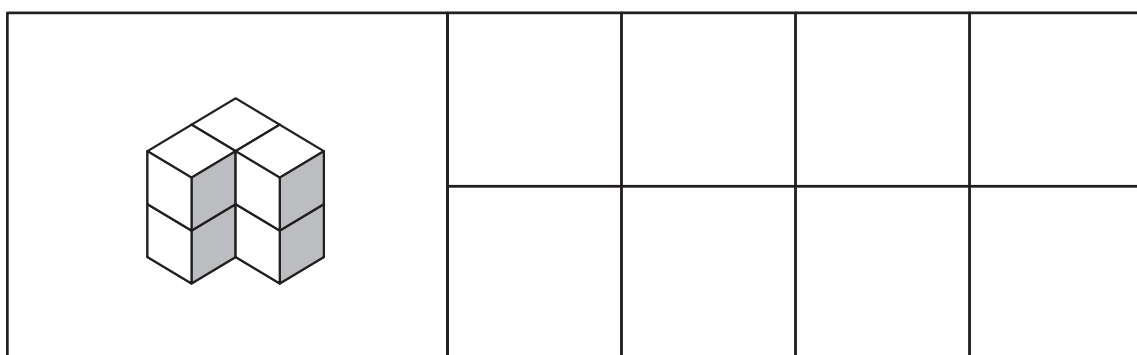
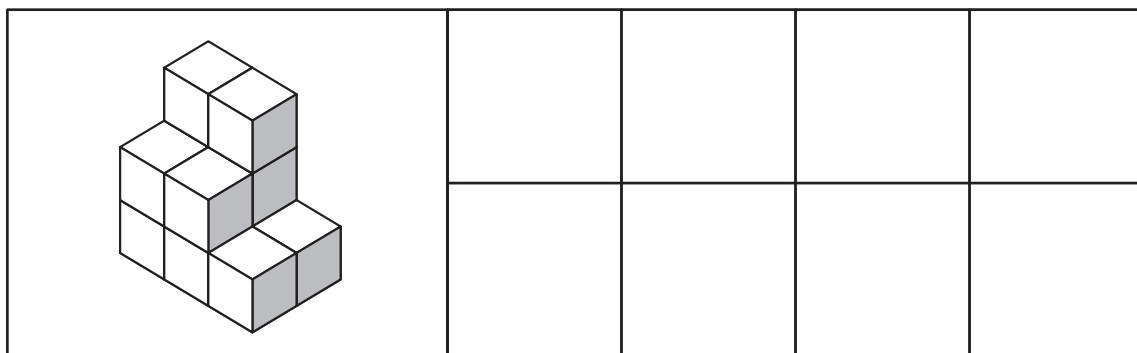


(例題4)の類題 2
 次の積み木の中で、一番多いものを見つけて○をつけなさい。



(例題6)の類題 1

隠れて見えない積み木の数だけ○をかきなさい。



(例題7)の類題 2

左端の積み木は、右の2つの積み木を合わせるとできます。どの積み木とどの積み木でしょうか。見つけて○をつけましょう。

